



3年ぶりに帰った日本で、たまたま北カリフォルニアにいたときに教会関係で知り合った友人、小林 Gray 愛子さんのタペストリーの展示会が実家のそばでありました。タイミングよく見に行くことができました。

愛子さんはアメリカ暮らしですが、頻繁にそのユニークな作品を日本で紹介されています。彼女は美大生の夏休みに訪ねたコペンハーゲンの美術館で出逢った、インカの古布がきっかけで油絵から織物の世界を選ぶことになったそうです。また1985年に東京で美しいガテマラの民族衣装を見て大好きになり、このようなタペストリー（織物）の作品を生み出すことになったのです。ひとつの作品に3か月かかるそうです。



